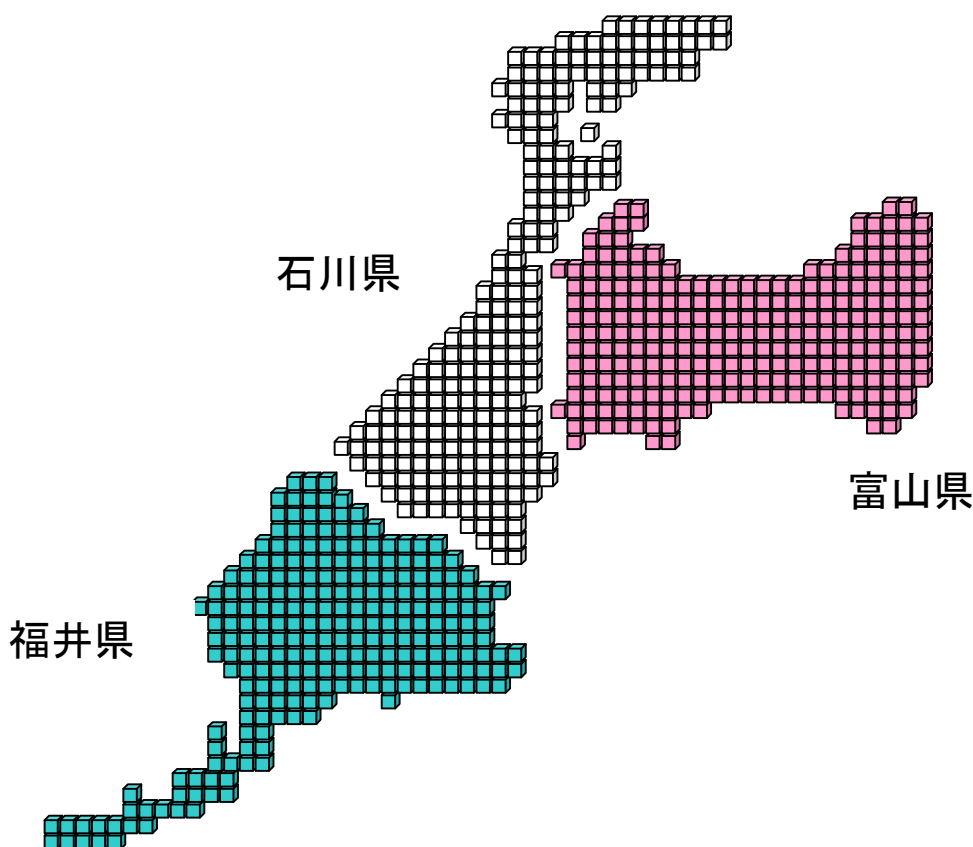


管内経済情勢報告



令和6年10月

財務省北陸財務局

お問合せ先
財務省 北陸財務局 経済調査課
TEL (076) 292-7858

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、令和6年能登半島地震の影響は残るものの、復旧・復興需要や北陸新幹線の敦賀延伸効果等もみられることなどから、緩やかに持ち直している」

項目	前回（6年7月判断）	今回（6年10月判断）	前回比較
総括判断	令和6年能登半島地震の影響は残るものの、復旧・復興需要や北陸新幹線の敦賀延伸効果等もみられることなどから、持ち直しつつある	令和6年能登半島地震の影響は残るものの、復旧・復興需要や北陸新幹線の敦賀延伸効果等もみられることなどから、緩やかに持ち直している	➡

（注）6年10月判断は、前回6年7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、地震の影響は残るものの、復旧・復興需要や北陸新幹線の敦賀延伸効果等もみられることなどから、緩やかに回復しつつある。生産活動は、生産用機械が弱含んでいるものの、化学が緩やかに回復していることなどから、全体では持ち直しつつある。雇用情勢は、地震の影響により一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（6年7月判断）	今回（6年10月判断）	前回比較
----	------------	-------------	------

個人消費	地震の影響は残るものの、復旧・復興需要や北陸新幹線の敦賀延伸効果等もみられることなどから、持ち直している	地震の影響は残るものの、復旧・復興需要や北陸新幹線の敦賀延伸効果等もみられることなどから、緩やかに回復しつつある	➡
生産活動	地震後の復旧が進んでいることなどから、持ち直しつつある	持ち直しつつある	➡
雇用情勢	地震の影響により一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している	地震の影響により一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している	➡

設備投資	6年度は増加見込みとなっている	6年度は増加見込みとなっている	➡
企業収益	6年度は減益見込みとなっている	6年度は減益見込みとなっている	➡
住宅建設	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	➡

【先行き】

先行きについては、復旧・復興の動きに加え、各種政策や北陸新幹線敦賀延伸の効果もあって、持ち直していくことが期待されるが、地震等の影響については十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「地震の影響は残るものの、復旧・復興需要や北陸新幹線の敦賀延伸効果等もみられることなどから、緩やかに回復しつつある」

百貨店・スーパー販売は、百貨店では外商を中心に高額品に動きがみられることに加え、催事効果やインバウンドにより客数が増加しているほか、スーパーでは飲食料品に動きがみられることから、全体では緩やかに回復しつつある。コンビニエンスストア販売は、被災地支援者や北陸新幹線の敦賀延伸効果による観光客の来店が続いており、米飯類等に動きがみられることから、堅調となっている。ドラッグストア販売は、飲食料品等に動きがみられるほか、新規出店効果もあり、拡大している。ホームセンター販売は、被災家屋の復旧需要により DIY 用品に動きがみられることなどから、順調となっている。家電大型専門店販売は、給湯器やテレビに動きがみられることから、持ち直しの動きがみられる。新車販売台数は、緩やかに持ち直しつつある。主要観光地の入込客数及び主要温泉地の宿泊客数は前年を下回っている。なお、能登地域以外では、北陸新幹線の敦賀延伸等の効果もあって、前年を上回っている。旅行取扱状況は、海外旅行は厳しい状況にあるものの、国内旅行は持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 外商を中心に美術品や宝飾・時計などの高額品が引き続き好調。また、アニメなどの催事が盛況で、物販に加えレストラン利用も増えているほか、引き続きインバウンドによる売上げも伸びている。(百貨店)
- 食材や油等の価格が高騰するなか、惣菜や冷凍食品がよく売れている。(スーパー)
- 買上点数は減少傾向にあるものの、商品単価の上昇により売上げは前年を上回っている。(スーパー)
- 被災地支援者の来店が続いているほか、北陸新幹線の敦賀延伸効果等により観光客が増加している。9月は残暑の影響から冷やし麺や飲料が好調に推移している。(コンビニエンスストア)
- 梅雨明けが遅れた影響により UV 商品の動きは鈍かったが、制汗剤や殺虫剤がよく売れた。また、生鮮売場の強化や節約志向の高まりによって、スーパーから消費者が流入している。(ドラッグストア)
- 引き続き地震により損傷した家屋等の復旧のための工具・金物がよく売れている。また、防災・備蓄意識の向上から水や長期保存可能食品等の防災用品に動きがみられた。(ホームセンター)
- 補助金効果もあって、給湯器などの省エネ型家電が引き続き好調。また、オリンピック需要によりテレビがよく売れた。(家電大型専門店)
- 新たな認証不正問題の影響はほぼ解消した。これまで出荷停止となっていた人気車種の出荷・生産が再開されており、今後に期待している。(自動車販売店)
- 8月後半は台風の影響があったものの、北陸新幹線敦賀延伸等の効果や、コロナ禍以降低調だった団体客に動きがみられ、客数は好調に推移した。10月以降も秋の行楽シーズンや、北陸デスティネーションキャンペーン(北陸 DC)もあって予約は好調。(加賀：温泉地)
- 地震後徐々に客足が戻っていたが、9月の奥能登豪雨により、遠方からの客足がまた遠のいてしまったように感じる。(能登：観光地)
- 国内旅行は、近場への旅行に加え、遠方への旅行も増えている。10月以降も秋の行楽シーズンや北陸 DC により、多くの予約がある。海外旅行は、近場で比較的安価なアジア方面に動きがあるものの、円安や料金の高騰からヨーロッパなど遠方への旅行が避けられている。(旅行代理店)
- 奥能登豪雨について、団体の宴会がキャンセルになるなど一部影響はみられたものの、10月の宴会予約はコロナ前を上回るなど好調に推移している。宿泊についても、北陸 DC の効果もあって予約は好調。(宿泊)

■ 生産活動 「持ち直しつつある」

化学は、大宗を占める医薬品で、緩やかに回復している。電子部品・デバイス、家電向けが弱まっているものの、スマートフォン向けが持ち直しつつあることなどから、全体では下げ止まっている。生産用機械は、半導体製造装置が持ち直しているものの、繊維機械や金属加工機械が弱含んでいることなどから、全体では弱含んでいる。金属製品は、大宗を占めるアルミ建材で、住宅用が弱まっているものの、ビル用に持ち直しの動きがみられることから、全体では下げ止まっている。繊維は、衣料向けが弱含んでいるものの、非衣料向けが持ち直しつつあることから、全体では緩やかに持ち直しつつある。

- 地震の影響で停止していた一部の製造ラインがようやく再稼働し、地震前の生産体制に戻った。(化学)
- スマホ向けは、北米メーカーの新モデル用の受注が堅調に推移しており、工場はフル生産で稼働している。(電子部品・デバイス)
- 繊維機械は、海外向けで中国やバングラデシュなどからの受注が不振であり、生産計画を下方修正した。(生産用機械)
- 新築需要の減少に加え、コスト抑制や省エネ志向の高まりにより住宅の窓数も減っており、住宅用サッシが低迷しているものの、ビル用では首都圏の駅前開発を中心に安定的な需要がある。(金属製品)
- 自動車向けは、認証不正問題の影響が9月以降なくなり、堅調に推移している。(繊維)

- **雇用情勢 「地震の影響により一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している」**
有効求人倍率は、横ばいとなっており、高水準で推移している。新規求人数は前年並みとなっており、新規求職者数は前年を下回っている。雇用保険受給者実人員は前年を上回っている。

- 慢性的な人手不足で、業界では人材の奪い合いの状態。採用活動に力を入れるのと同時に、既存社員の離職防止のために社内イベントの開催や社屋の改装など働きやすい職場環境づくりに努めている。(繊維)
- 早朝や夜のシフトは特に人手不足が深刻で、料理や掃除など業務をマルチタスク化するなどオペレーションを工夫して人員をやりくりしている。(宿泊)
- 原燃料費や人件費の高騰が企業の収益を圧迫しており、人手が足りなくても求人を控える傾向がみられている。(公的機関)
- 能登地域では、解体作業や公共工事など復旧・復興に向けた建設作業員の求人が増加しているが、応募が少なく、人手不足感が強い。(公的機関)

- **設備投資 「6年度は増加見込みとなっている」** (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年7-9月期
 - 製造業では、非鉄金属などが減少となるものの、情報通信機械器具、自動車・同附属品などが増加となることから、全体では増加見込みとなっている。
 - 非製造業では、小売などが増加となるものの、金融・保険、運輸・郵便などが減少となることから、全体では減少見込みとなっている。

- 半導体増産のための新工場建設などにより、増加見込み。(情報通信機械器具)
- 新製品向け設備の新設により、増加見込み。(自動車・同附属品)
- 前年度の営業区間拡大に伴う大規模投資の反動により、減少見込み。(運輸・郵便)

- **企業収益 「6年度は減益見込みとなっている」** (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年7-9月期
 - 製造業では、情報通信機械器具などが増益となるものの、繊維工業、金属製品などが減益となることから、全体では減益見込みとなっている。
 - 非製造業では、情報通信などが減益となるものの、学術研究、専門・技術サービス、小売などが増益となることから、全体では増益見込みとなっている。

- **企業の景況感 「『下降』超となっている」** (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年7-9月期
 - 企業の景況判断BSIは、製造業、非製造業ともに「下降」超となっている。なお、先行きは、全産業では6年10-12月期、7年1-3月期ともに「上昇」超となる見通しとなっている。

- **住宅建設 「弱い動きとなっている」**
 - 新設住宅着工戸数でみると、弱い動きとなっている。

- **公共事業 「前年を上回っている」**
 - 前払金保証請負金額でみると、前年を上回っている。

- **金融機関の貸出金 「前年を上回っている」**
 - 金融機関の貸出金は、前年を上回っている。

- **企業倒産 「前年を下回っている」**
 - 件数、負債総額ともに前年を下回っている。

- **消費者物価(金沢市、生鮮食品を除く総合) 「前年を上回っている」**
 - 消費者物価指数でみると、前年を上回っている。

3. 各県の総括判断

	前回 (6年7月判断)	今回 (6年10月判断)	前回比較	総括判断の要点
石川県	令和6年能登半島地震の影響は残るものの、復旧・復興需要や北陸新幹線の敦賀延伸効果等もみられることなどから、持ち直しつつある	令和6年能登半島地震の影響は残るものの、復旧・復興需要や北陸新幹線の敦賀延伸効果等もみられることなどから、緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、地震の影響は残るものの、復旧・復興需要や北陸新幹線の敦賀延伸効果等もみられることなどから、緩やかに回復しつつあり、生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、地震の影響により一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している。
富山県	地震後の復旧が進んでいることなどから、持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は緩やかに回復しつつあり、生産活動は持ち直しつつある。雇用情勢は、足踏みの状況にある。
福井県	北陸新幹線の県内開業効果もあって、持ち直している	北陸新幹線の県内開業効果が引き続きみられるなか、緩やかに回復しつつある	➡	個人消費は北陸新幹線の県内開業効果が引き続きみられるなか、回復しつつあり、生産活動は持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直している。